

「令和 8 年度熊本地震」 関連についての報告

一般社団法人 全国腎臓病協議会
災害対策委員長 玉置 幸利

このたびの「令和 8 年熊本地震」により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

全腎協では、熊本県内の透析医療の状況について、関係機関、加盟組織及び関係企業等から情報収集を行ってきました。現時点で把握している透析施設の被災・復旧状況、日本透析医会による支援の取組及び全腎協事務局に寄せられた情報について、下記のとおりご報告いたします。

○透析施設の被災状況：厚生労働省 2026/8/4(火)16:30 発表資料

<https://www.mhlw.go.jp/content/001733220.pdf> (P12) より

熊本県内にある 94 カ所の透析施設のうち、日本透析医会の運営している災害時情報ネットワークを通じて、最大 13 カ所の透析施設より透析実施困難との報告を確認している (7/29)。

直近で、給水支援により 4 カ所、ライフラインの復旧により 6 カ所が透析実施可能。3 カ所は機材の損傷等により引き続き透析実施困難だが、3 カ所全てにおいて他医療機関での透析実施を手配済みとの報告を確認している (8/3)。

熊本県及び透析医会を通じて、透析患者の医療機関調整の状況や透析施設の復旧状況をフォローアップ中 (8/4)。

○全腎協事務局に寄せられた情報**2026/7/30(木)：出森ブロック担当理事からの報告による熊腎協事務局の状況**

熊腎協事務所は、上の物が落ちたり引き出しが出たくらいで、大丈夫だったとのこと。電気・水道などのライフラインや電話・通信ネットワークなども問題ないとのことでした。事務局の皆さんも異常なくおそろいようです。透析患者の被害については今のところ連絡はないとのことでした。

2026/7/30(木)：透析剤研究会の構成企業からの報告

透析剤メーカー5 社とも工場等の影響はなく生産は通常であり、物流は道路事情等心配ではあるが、連絡を取り合っている限りでは大きな影響はないとの報告がありました。

2026/7/31(金)：透析剤研究会の構成企業からの報告（八代市内の透析施設の支援物資を届けた企業の担当者からの報告）

支援物資を届けた 3 施設では透析を再開した施設、再開の見通しが立っていない施設、井戸水の確保により再開の見通しが立った施設がありました。この地域では浄水場が大きく被災しており、透析再開には井戸水の確保または自衛隊等による給水支援が不可欠な状況であること、施設職員の皆様も被災者であり、強い疲労を抱えながら、患者の透析治療を守るため懸命に対応されており、今後も各施設の復旧状況と必要な物資を確認し、継続して支援につなげる必要があること報告がありました。

緊急支援金について

緊急支援金への協力については、各都道府県加盟組織においてご判断くださいますようお願いいたします。参考までに、日本透析医会では、日本災害時透析医療協働支援チーム (JHAT) と協力し、被災地域における透析医療支援活動を支援するため、緊急支援金の募集を開始しています。下記リンク先をご参照ください。

<https://touseki-ikai.or.jp/touseki/wp-content/uploads/2026/07/2026-kumamoto-earthquake-support.pdf>